

ホーム名：グループホームアステリスク					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各会議の始めに法人理念を皆で朗読し、また各ユニットにも掲示し常に意識をして業務を行えるようにしている	「私たちの想い」と「私たちのお約束」を設定し、管理者と職員は共有し、日々のケアの中で実践に取り組んでいる。又、「私たちの想い」と「私たちのお約束」は、ホームページやパンフレットに記載され、利用者や家族にも公開されている。	「私たちの想い」と「私たちのお約束」を補完するような各ユニット単位での行動指針のようなものを職員が中心となって設定されることに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議に町内の方にもご参加いただき適宜情報交換を行い、交流を持つようにしている	自治会へは加入されているが、地域行事へに参加は、行事が少ないこともあり、行事以外でも交流を深めていくよう取り組んでいる。	1Fの地域交流スペースを活用した地域との共同企画のイベント等を通じて、地域との交流を深めていかれることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でご家族や地域包括支援センター職員と関わることから認知症の理解と認知症ケアの啓発に努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二か月に一回開催し、活動報告、事故報告等を報告し様々なご意見をいただきサービス向上に努めている	2ヶ月に一度、事業所内で開催している。利用者と家族にも参加を呼びかけ、参加されている。議題として、事業所で発生した事故やヒヤリハットと今後の対応等も報告されており、運営状況が透明性をもって公開されている。又、議事録は、事業所のブログでも公開されている。	地域の自治会からも参加して頂き、意見交換をしてことも大事かと思われるので、引き続き、自治会のイベントへの参加等を通じた様々な交流を深めていかれることに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	必要時には市町村担当者のもとへ相談に出向くようにしている。また、市から委託された民生委員の方が月に二回介護相談として訪問してくれている	グループホーム連絡会への参加や介護相談員の受け入れ等を通じて、市との協力関係を築いている。	運営推進会議には、市側は参加されていないので、運営推進会議資料や議事録を市側にも送付しておくことも市との連携強化になるかと思われるので、検討されてはどうか。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は構造上、リスク管理上、実施しているがご家族様にご説明しご理解いただいている。また、研修などでも身体拘束について取り上げ、職員間で意識を統一し身体拘束のないケアを実践している	利用者は、施設の1階から3階を自由に行き来できている。玄関は、家族の同意の上、利用者の安全を重視し、施錠されている。職員は、勉強会等を通じて、身体拘束をしないケアの実践に努めている。勉強会の様子は、事業所のブログでも公開されている。	玄関は利用者の安全を重視し、施錠されているが、日常的に事業所周辺の散歩等の機会を増やす等で玄関の施錠が利用者のストレスとならないよう対応されていかれることに期待したい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、マニュアルを基準として年間研修計画の中で全職員で勉強会を開き防止に努めている		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部の成年後見制度の研修に参加したり、専門家へつなぐ体制もとっている。また年間研修計画にも法令順守等を全職員参加型で行っている</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書にての説明や、見学等を含め、時間をとって十分な話し合いを行い不安や疑問点などできる限り取り除けるようにしている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情・相談の意見箱を設置や運営推進会議時意見を求める仕組みを設けている。面会時に近況報告したり、入居者様の要望を家族様に伝えてコミュニケーションを図るようにしている。ブログを開設しており写真で日々の様子を伝えることで雰囲気がよくわかれると思ひ職員に積極的に投稿するよう促しています</p>	<p>施設訪問時に利用者の様子を伝える機会を利用したり、事業所のブログを活用して、利用者の暮らしの様子や運営の取り組み状況を公開し、家族からの意見や提案を頂けるよう取り組んでいる。</p>	<p>第3者となる介護相談員を受け入れをされているので、利用者や家族からの相談内容を利用者や家族からの意見として、運営に反映していかれることに期待したい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月に一度の全体会議やユニット会議の中で意見や提案を聞き、事業所運営に反映させている</p>	<p>各ユニットのリーダーが各職員の意見や提案を収集、集約し、月1回開催される職員全体会議で、運営への反映可否を検討されている。</p>	<p>今後も継続して、職員から出された意見や提案結果のフィードバックや振り返りを行われていられることに期待したい。その中で、新たなケアに対する工夫や気づきも生まれるかと思われる。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員との意思疎通を図り安心できる介護サービスの向上を目指している</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内、法人内、法人外研修への参加の機会を設けたり、資格取得に積極的に努力するように促している</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>南区グループホーム連絡会にて、南区の11施設が二か月に一度情報交換し啓発活動を行っている。また運営推進会議にも参加して頂いたり、こちらからも運営推進会議に参加させて頂いたりしている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族、ご本人などからこれまでの生活状況や心理状態を伺い、把握することを努め、職員間でも情報共有を図り、安心した生活ができるように努めている</p>			
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>契約前や入居前に施設見学にお越しいただいた際に、家族の思いや疑問な点などを伺い、不安な点や疑問点が出来る限り取り除けるように取り組み関係づくりに努めている</p>			
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>申し込み時や契約の際にグループホームの役割を説明するとともに他のサービス等の説明も行い、ご本人にとって必要なサービスを紹介できるように情報収集を行っている</p>			
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様のペースに合わせ、一緒に生活している家族のような関係を築き、日々の中で、残存能力を活用して生活を行えるよう工夫を行っている</p>			
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族には面会時等に利用者の日々の暮らしの中の出来事などを報告し、関係性を保つようにしている</p>			
20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族の方を通じ、馴染みの方にも途切れず面会に来ていただけるよう関係性を維持できるように心がけている</p>	<p>利用者の家族、知人や友人が、面会にこられた時、利用者とともに事業所内で開催されている喫茶イベント等に参加して頂く等、家族、知人や友人も利用者と共に楽しめる工夫をされている。</p>	<p>要介護度が進む中で、利用者自らが知人や友人に会いに行く機会が減少していく中で、今後も知人や友人が事業所へ面会に来て頂く様々な工夫に取り組んでいかれることに期待したい。</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>生活の様子や個々の性格を把握し、親しい関係が築けるように支援を行っている。利用者同士のつながりや支えあいがあればと考え、お互いに助け合う場面があれば職員はあえて入り込まず遠くから眺めるようにしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>まだ開設して半年でもありなじみの関係が気づけるまでに至っていないケースもあるが、いつでも心の拠り所となれるよう支援を行っている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族より生活歴を伺ったり、生活していく中での日常会話などから情報を得たりとできるかぎり意向にそえるようにつとめている	利用者の担当者を決め、利用者一人ひとりの思いや意向を記録シートに記載し、職員間で共有しながら取り組んでいる。	要介護度が進む中で、利用者からの聞き取りが困難になっていくかと思われるが、継続して日々の行動や表情から汲み取りしながら思いや意向の把握に努めていかれることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族様、関係者の方から聞き取りを行い、フェイスシートを作成し、理解につなげている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分で出来る範囲のことは見守りながら、変わったことなどは申し送りや記録を活用し職員間での情報共有に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員、訪問看護師等の要望や意見を反映し、計画を作成している	利用者の担当者を決め、その担当者の意見を重視し、利用者一人ひとりの思いや意見を家族とも連携しながら、利用者の現状に即した介護計画作成とモニタリングがおこなわれている。	要介護度が進む中で、利用者からの聞き取りが困難になっていくかと思われるが、継続して日々の行動や表情から汲み取りしながら思いや意向の把握に努めた結果を期間や身体状態の変化だけに捉われずに介護計画の見直しに反映していかれることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排せつ表、介護記録などから身体状況や生活状況などの把握に努め、情報共有するように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の要望をくみ取り、支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と連携し、市から委託されたボランティア相談員の月二回の訪問にて楽しく話されたりしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は基本的に家族に対応して頂くようお願いしている。また、月1回の精神科の看護師、皮膚科医師の来訪、月二回のドクターの往診がある	事業所の協力医療機関による定期的な往診が行われている。協力医療機関以外の希望による受診は、家族による通院介助の協力を頂きながら、利用者は受診できている。	今後も継続して、利用者や家族の様々なニーズや意向に沿った医療支援に対応されていかれることに期待したい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>普段の生活状況を把握し、併設している特養の看護師にも利用者のことをしていただくよう協力を依頼し、また外部の精神科の看護師とも連携を図り支援している</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>協力医療機関があり、医療連携室のケースワーカーとの情報交換はできている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご契約の際に重度化した場合等の指針を説明し、ご家族様と共有するようにしている。緊急時の対応等、研修等を実施していくようにしている</p>	<p>重度化に対する事業所の方針を入所時に利用者と家族に説明されている。できるだけ家族等の意向に沿って対応ができるよう取り組んでいる。</p>	<p>今後も継続して、利用者や家族の意向に沿った対応がどこまでできるのか。利用者の状況変化に応じた繰り返しの話し合いと合意を繰り返しながら、対応されていかれることに期待したい。又、今後は、看取りに対する対応も検討されていかれることに期待したい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故防止委員会を設置し、事故を未然に防止し安全で適切なサービスを提供できる体制を整備している。また、全職員が救命救急士の講習を受け利用者の急変時や事故発生時に備えられるように努めている。また、AEDも設置している</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に二回、避難訓練を行っているうち、一回は消防署立会いのも行っている</p>	<p>避難訓練は、年2回実施されており、1回は、消防署が立会いをされている。災害発生時の対処計画を策定し、水や食糧等も備蓄されている。</p>	<p>火災以外に台風や地震等に備えた災害対策と訓練を様々なパターンで実施されていかれることに期待したい。又、地域との連携も重要になるかと思われるので、地域と共同での対策や訓練も実施されていかれることに期待したい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、声掛け・誘導・見守り・介助を行い、自立に向けた支援を行っている	利用者との馴れ合いによるプライバシーや尊厳を損なわないよう言葉づかいや個人の意思を尊重したケアがおこなれている。	今後も利用者の担当制によるきめ細かなケアを維持しながら、馴れ合いにも注意をしながら対応されていかれることに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の好みを自己決定できるように支援を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にして、起床・食事・レク・入浴など入居者様の状態に合わせて声掛けし提供している。その方らしく暮らして頂けるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容院が年8回程来るので利用したり、外出の際にはお化粧品をしたり好きな色柄の服を着たり、鏡をみて身だしなみを整えたりとできる限りの支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事等では季節感を表し食事から四季を感じてもらおうよう心掛けている。また、月に二回、管理栄養士が手作りの和菓子・洋菓子を作り、喫茶店のように1階地域交流スペースで皆に提供している	高齢者福祉施設に特化した給食サービス会社を活用した食事を提供されている。手作りと変わらないおいしさにより利用者は食事を楽しむことができている。又、外出イベントによる外食や施設内でのイベント食を通じて、利用者が食事を楽しむ機会を工夫されている。	今後も継続して、利用者のQOLに応じた食事の準備や後片付けの支援強化にも力を入れていかれることに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	水分・食事量を記録している。本人の状況に合わせ、管理栄養士が中心となり、食事形態の見直しを行い、その方の嚥下・咀嚼状態にあった形態で、口から食べることへの支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には声掛けにて口腔ケアを行い、義歯の洗浄も行っている。また週に一度訪問歯科が来訪し、個々の状態に合わせた口腔ケアの支援をおこなっている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄を記録し、排泄パターンの把握に努めている。一人ひとりの状況に合わせた、声掛けや誘導でトイレでの排泄を支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、トイレでの排泄ができるよう介助されている。	今後も継続して、利用者の自尊心に配慮しながら、利用者の様子から排泄タイミングを察知し、身体機能に応じた介助をされていかれることに期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように、水分量・活動量の確保を促し、食事や飲み物の工夫やオリゴ糖を用いたり便秘を予防できるように工夫している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	当施設では安全性と快適さにこだわった、青森ヒバ浴槽と十和田石床のお風呂でお一人ずつのんびりと入浴できるようになっている。また、お風呂委員会を設置し毎月3日間、風呂の日を実施し入浴剤や季節の産物などを使い、入浴後には月替わりドリンクを提供したりと、普段以上にお風呂を楽しんでもらえる日を作ったりと工夫している	週2回、利用者の希望と体調に合わせた調整を行いながら、一人ひとりに希望に応じた入浴介助が行われている。又、外部の介護アドバイザーがプロデュースした「ユニバーサルデザイン」の浴室で、利用者の持つ残存能力を生かした入浴介助が行われている。	今後も継続して、利用者の羞恥心、恐怖心、負担等に配慮された入浴介助に努めていかれることに期待したい。

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の生活パターンを把握し、夜間に安眠できるように支援している日中での休息が必要な方には休んで頂いている。個々の生活パターンを大切にできるように環境づくりにも配慮している</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々の服薬状態は個別のファイルに保管し、いつでも確認が取れるように把握に努めている</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の得意なこと・好きなこと・できることなどを探りながら日々の生活の中に多くのものを取り入れるように努めている</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>お天気のいい日に散歩に行ったり、地域のお祭りやイベントに出向いたり、気分転換に喫茶店への外出等の支援も行っている</p>	<p>事業所での様々な外出イベントや地域主催のイベントに参加する等の外出支援が行われている。</p>	<p>要介護度が進み、外出する機会も減少していく中で、日常的な外出となる散歩等がストレス解消や四季を感じたり、五感刺激を得られる貴重な機会になってくるかと思われる。職員だけでなく、家族や地域の方々とも協力しながら、日常的な外出支援に取り組んでいかれることに期待したい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には金銭管理はご家族様もしくは小さい金額であれば、自己管理でお願いしているが、預かり金サービスを利用することもできるようにしている。買い物等の際に個人のものを購入する際には立て替えている</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の希望により、依頼があった際には行っている</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間には季節感を感じられるように、利用者様と一緒に作りがみで作ったオーナメント等を飾ったりし季節のものを製作し明るい雰囲気づくりを心掛けている</p>	<p>利用者がストレスを感じない広々としたスペースと明るさ、音、におい等にも配慮がなされている共有空間となっている。又、1Fの地域交流スペースでは、様々なイベントを開催することができ、2Fのバルコニーでは、夜景を楽しむこともできる。</p>	<p>利用者の居心地がよい空間づくりに利用者の家族等からの感想や気づきも取り入れながら、共有空間づくりに取り組んでいかれることに期待したい。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者同士が居心地よく感じる空間となるように努めている</p>		
54	20 <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者が安心して過ごせるよう、ご家族にご協力いただき使い慣れていたものを持って来ていただくようにしている</p>	<p>利用者の居室は、利用者と家族の希望に応じたものが持ち込まれており、その人らしい居室を感じることができる。</p>	<p>利用者本人の持ち物が少ない。家族の協力が得られない。身寄りがいない等の場合でも、利用者本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組んでいかれることに期待したい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、浴室、廊下等には多くの手すりを設置している居室内も含め、個々の動線や身体状況に合わせて、居室でのかぐの配置などを検討し、安全に生活できるように配慮している</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない